

佐久間先生を偲んで



半田支部
竹内 康

愛知県柔道整復師会前会長佐久間 稔晴先生は、病氣療養中のところ、去る令和3年12月16日家族に見守られ静かに旅立たれました。正月前に自宅に戻って家族と一緒にゆっくり過ごしたいと言ってみただけに、突然の訃報連絡に残念でなりません。

佐久間先生の人生は、柔道と共に歩んで来られたと思います。幼くして先の太平洋戦争で父親を亡くされ、母親との厳しい暮らしの中で、何とか心身共に強い自分になりたいと子供心から想われたそうで、中学から柔道の修行を始め、柔道名門校安房高校で頭角を現し、新三菱重工名古屋自動車製作所に就職され、社会人柔道で大活躍をされました。13年間務められ後退職されて、新たに柔道整復業界に飛び込まれた異色の経歴の持ち主と言えましょう。

昭和49年に中部柔整専門学校に入学され、51年に免許取得し柔道整復術研鑽に励まれ、53年に愛知県柔道整復師会に入会と同時に、佐久間接骨院を開業されました。この間のご苦労は奥さんの全面的な協力を得て乗り越えられたことに頭が下がる思いです。地域の住民の皆様方に優しさと献身的な施術を施し、住民の皆様から慕われて来られました。このような先生を愛知県柔道整復師会や半田支部の会員が見逃すはずがありません。



先生は平成5年（1993年）から理事、常任理事として学術部長、保険部長を務められ、その間平成7年には愛整協同組合設立準備委員として、平成10年には介護保険法の中で機能訓練指導員として、介護予防を中心とした介護ステーション事業に会員の教育実践を推進するため陣頭指揮をとり、平成11年に愛整會

八十年史の発刊にも関わられました。平成13年からは、愛知県国民健康保険団体連合会柔道整復療養費審査委員会委員、愛知県労働局労災保険審査会委員、全国健康保険協会愛知支部柔道整復療養費審査委員会委員として活動し柔道整復業務従事者の適切な保険運用に寄与されました。



平成14年12月13日、浅井 正孝元会長の急逝を受け、平成15年5月会員の皆様の推挙をいただき、社団法人愛知県柔道整復師会7代目会長に就任されました。

「大役を受けたからには、命を投げ打って本会の安定と更なる発展に務めたい」と力強く挨拶された言葉が今も記憶にあります。就任された直後6月、全知多柔整会は先生に頑張ってもらおうと「佐久間先生を囲む会」を開催し一致団結を図りました。20年前はみんな若かった。

平成15年6月からは、愛知県国民健康保険団体連合会介護給付費審査委員会の委員として介護保険の適切な運用にも寄与されました。



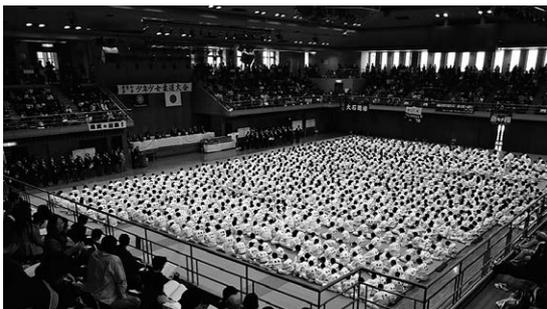
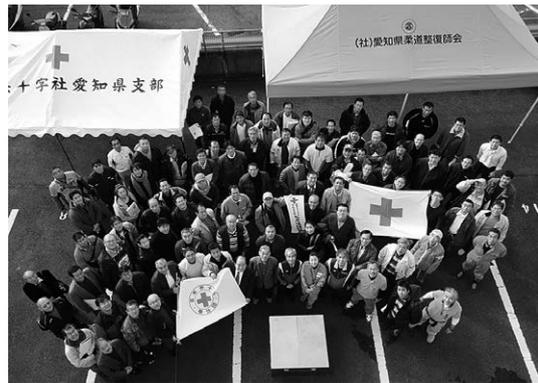
愛整会新会長 佐久間稔晴を囲む会 平成15年6月29日 テラス

平成15年7月からは、愛知県柔道連盟から顧問として依頼を受け、今まで以上に密の関係を取り各種柔道大会等青少年健全育成に尽力されました。

平成21年6月からは、日本赤十字愛知県支部において愛知県柔道整復師会災害救護赤十字奉仕団を結成し委員長として災害時及び平時に備えての活動に寄与された。

平成19年公益法人制度改革関連三法交付、公益活動に関する規定クリアによる知事認可等、公益社団移行に向けて大きな仕事を成し遂げられ、平成24年4月公益社団法人愛知県柔道整復師会が認可されました。成し終えた先生の喜びと安堵の顔が忘れられなかったです。私も事業・柔道部長として、柔道・救護・災害対策の三本柱として、柔道大会、柔道形競技会、救護員派遣、健康柔（やわら）体操、駆け込み110番、県市町の防災訓練、災害無線連絡会、災害伝言ダイヤル171、日赤特殊奉仕団活動等々。愛整杯少年少女柔道大会では1,480名の参加となり閉会式が午後7時を過ぎてしまいました。公益社団法人への移行認定申請に向けて事業拡大を図ったものです。すべて、佐久間会長のもと企画運営されたものでした。

そんな中で、平成23年3月11日東日本大震災が発生し想像を絶する甚大な被害をもたらしました。そこで、日整



より医療従事者に帯同し、被災地への救護活動に従事する会員募集の依頼があり、本県からも希望者を募りました。私は任期最後の災害対策の担当責任者として率先し現地に駆け付けなければならない立場にあったのに、その行動が取れなかった自分をいつまでも責めました。情けない事業部長であったと。今思い出しても恥ずかしくて言い訳できません。先生、ごめんなさい。

佐久間先生は、社団法人・公益社団法人愛知県柔道整復師会として、理事3期6年、常任理事5期10年、会長職11年合わせて27年間務められました。どんな厳しい状況下にあっても、声を立てることなく冷静沉着でした。



その間のそれぞれの思い出は、余りにも多すぎて書ききれません。

また、社団法人日本柔道整復師会では平成13年から代議員、部員、理事、生涯学習委員会委員長、常任理事広報部長、また柔道整復研修試験財団評議員、日本柔道整復接骨医学会監事他歴任されました。そこで、柔道整復師界の発展に著しく寄与された会員に贈られる日整最高の栄誉賞、帰一賞も柳田先生と一緒に受賞されました。

日整では、時には連日の会議にほとんどの先生方が東京に於いて宿泊される中で、先生は一晩たりとも奥さんと離れられないのか自宅へ帰られました。そんな時、駅弁を食べながら世間話をさせてもらったのが、つい先日のように思われます。

私は、愛整会・日整広報部まで16年間佐久間先生と行動を共にさせていただきました。この業界では、私の方が少々先輩であっはずなのに、いつの間にやら逆転。

地元柔道会でも、長年にわたり全知多柔道会に関わらせていただいていた関係から、全知多柔道会顧問として柔道大会は言うまでもなく、総会等にも出席をいただき、時には半田市体育協会会長としての立場からも、会場運営等々温かい言葉をいただきものです。

先生が開業されて間もないころ、半田支部親睦旅行の京都旅館に於いて、布団の上で寝ころがって世間話をしているとき、ふざけ合っていたはずの柔道寝技が本当に絞められてしまって、皆さんの援護のもと逃げられた？きっと、いつもより量が多かったんでしょう。先生にもこんな一面が。

平成5年に私にとって最大のピンチが。六段昇段月次試験において、肩から転落し肩鎖関節を傷め一ヶ月間仕事不能となる怪我を負ってしまいました。稽古もせずに昇段試験に参加した愚かな行動は否めません。翌朝、佐久間先生へ休業届を含め電話連絡したところ、一時間も経たないうちに佐久間接骨院の助手の先生が現れました。ビックリして先生に電話したところ、「休業せずに、応援するから見てもらえばいい」と。以後、三人の先生が午前・午後と交代して通ってもらえました。こんな有難い事が有り、先生には頭が上がらなくなっていました。私にとって一生忘れることのできない有難い話でした。

平成26年5月25日の定時総会において勇退されました。その直後、全知多柔道整復師会は、お世話になった佐久間先生にお礼を込めてささやかな慰労会を、知多市新舞子の海遊館において開催しました。先生は挨拶の中で27年間を振り返り、「日頃の業務を通じて国民の健康・福祉の向上及び青少年の健全育成に寄与することであるが、業界全体のマイナス要因からこの目的が崩れかけていると、柔道整復師業界の様子が変わりつつあることを危惧し、皆さんと共に業界の未来を築くために頑張ろう」と挨拶されたことを思い出します。



後任の森川会長にエールを送りつつ、顧問として業界の将来をしっかりと見守りたいとの一念であったように思います。長年愛整会において共に活動された、柳田、石田両先生も駆けつけていただき、来賓挨拶として長年の苦労話も飛び出し感謝したものです。

佐久間先生は、平成28年秋の叙勲において、永年にわたる公益社団法人愛知県柔道整復師会の発展に貢献された功績が認められ、旭日双光章を受章されました。そこで、平成29年3月5日ウエスティンナゴヤキャッスル二階天守の間に於いて、伊藤 忠彦衆議院議員代表発起人、森川 伸治愛整会会長発起人他、大勢の出席をいただき、愛知県柔道整復師会が協力する形で半田支部が企画開催しました。

先生は挨拶の中で、「私の活動を支えてくれた一心同体の妻と共に皆様に感謝申し上げたい」と結ばれ、お孫さんからの花束に笑顔の中にも眼がしらに光るものを感じました。長年にわたり大変お世話になった先生に少しでもお礼ができたこと全知多会員で喜び合いました。

先生が一段落つかれたころ、まずは新四国八十八ヶ所のお遍路へ、次は本四国八十八ヶ所巡拝に出かけようと予定していたのに、話までに終わってしまいました。でも、声を掛け合っていた四人の同志は、長い期間ではありましたが今年4月に満願達成を果たし、高野山へのお礼参りまでに至り、先生に報告しなければなりません。

あの優しい眼差しと柔和な笑顔に二度とお目にかかることができなくなってしまいました。奥様はじめご遺族さまには、淋しくなられたこととお察ししますが、先生は常にご家族の皆さんを見守ってみえると想います。深く感謝の意を表わすと共に、ご冥福を心よりお祈り申し上げます。

佐久間先生 ありがとうございます。

